

額田王、近江天皇を偲ひて作る歌一首

一六〇六番

君待つと 我が恋ひ居れば 我がやどの 簾動
かし 秋の風吹く

鏡王女の作る歌一首

一六〇七番

風をだに 恋ふるはともし 風をだに 来むとし
待たば 何か嘆かむ

弓削皇子の御歌一首

一六〇八番

秋萩の 上に置きたる 白露の 消かもしなまし
恋ひつつあらずは